

第9回村上市立小・中学校望ましい教育環境整備検討委員会会議録

○ 日 時

平成28年1月26日（火）午後4時 開会

○ 場 所

村上市生涯学習支援センター 大・中会議室

○ 出席した委員・アドバイザー

吉 川 雄 次 委員

三 浦 公 平 委員

大 滝 美世子 委員

伊與部 英 子 委員

伴 田 攻 委員

園 部 健 委員

佐 藤 憲 一 委員

佐 藤 英 和 委員

野 澤 重 夫 委員

鈴 木 利 文 委員

平 山 浩 委員

小 柴 柳 一 委員

澤 渡 寿 子 委員

宮 蘭 衛 アドバイザー

○ 欠席した委員

矢 部 常 男 委員

齋 藤 富 一 委員

大 嶋 芳 美 委員

佐 藤 康 弘 委員

齋 藤 悠 輔 委員

遠 藤 友 春 委員

○ 出席した教育長・事務局職員

教育長

圓 山 文 堯

学校教育課長

遠 山 昭 一

管理主事		鈴木正美
学校教育課 教育総務室長		大滝 寿
学校教育課 教育総務室		鈴木祐輔
学校教育課 教育総務室		板垣 圭
村上教育事務所長		今井雅仁
荒川教育事務所長		信田和子
神林教育事務所長		布川眞由美
山北教育事務所長		渡辺律子

○ 進 行

管理主事		鈴木正美
------	--	------

○ 書 記

学校教育課 教育総務室長		板垣 圭
--------------	--	------

○ 会議に付した議件等

- ・望ましい教育環境に関する基本的な考え方及びその実現に向けた方策について
 - ・答申書（案）について
 - ・アドバイザーからのご指導 等

・午後4時 開会宣言

鈴木管理主事 皆様、ごめん下さい。ただいまから、第9回村上市立小・中学校望ましい教育環境整備検討委員会を開始いたします。初めに吉川委員長、ご挨拶をお願いいたします。

吉川委員長 第9回の委員会に皆さんからお集まりいただきましてありがとうございます。ご案内を差し上げた時点では、まさか、昨日、一昨日のような、荒天に、悪天候になるとは思っていなくて、「今年はいつまでもあったかいねー」なんていう時期にお上げしたのでありますが、実は今日、皆さんからお集まりいただき、それから新潟からアドバイザーの宮菌先生においでをいただく、というような日を、昨日、前にしてですね、本当にハラハラしておりました。JRが全面的にストップだし、高速もダメだし、一般国道まで大渋滞だったという昨日でありましたが、今朝いろんな情報を得て、ホッとしたところであります。本

当にお集まりいただきましてありがとうございます。

宮菌先生、お忙しいのに、本当にありがとうございました。今日もよろしくご指導お願いしたいと思います。

今日は、第9回、最終回という事で、前回までご検討いただきました私どもの答申文について再検討いただき、宮菌先生からご指導いただいたりしながら、出来れば今日のうちに正式な答申を行いたいと、こう思っております。

そういう日程であります、ひとつ、忌憚のないご意見を頂戴したいと思います。よろしく願いいたします。

鈴木管理主事

ありがとうございました。それでは次第にしたがいまして進めてまいります。いつものように次第の3番からは吉川委員長の進行で、よろしく願いいたします。

吉川委員長

はい、それでは次第の3番の(1)(2)(3)と進めてまいりたいと思います。

(1)であります。お手元に、答申書の案と前回お話ししましたように、この答申にあたっての、「前文」と言いますか、「まえぶん」を付けましたのをお手元にお上げしてあります。その一枚目は答申の、要するに「まえがき」であります、「平成26年7月28日付け村教学第736号で諮問のあった事項について、別紙のとおり答申いたします。」という事を申し上げて、次ページ以降の答申文をお上げする。こういう案であります。

答申書については、前回、先々回あたりからいろいろご検討いただいている訳ですが、この段階で何かご意見ございましたら頂戴したいと思います。再三、読んでいただき検討いただいているところでありますが…。

本当に、この委員会がスタートいたしまして、特に2回目、3回目、4回目のあたりの事を思い起こすと、本当にいろいろな心配事があったり、これはどう考えればいい、というような問題点がいくつか出されたりしながら、それぞれまたご意見をいただきながら、こういう形にまとめてきた訳であります。

この文字には表れていないけれども、背景にはこういう心配や、こういう状況もあった、というようなのは委員さんそれぞれご存知のとおり訳であります、こういう形に集約した答申文であります。

いかがでありましようかね。特に…。

この段階で問題がなければ、前文を付けて答申をさせていただくと…。

皆さんの総意で、これを教育委員長さんにお上げすると。こういう事にしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(「異議なし」の声)

よろしいでしょうか。

(「はい」の声)

ありがとうございました。

それでは、今ほどお話ししましたとおり、この案を本物として答申をしたいと思います。よろしく願いいたします。

宮蘭先生、というところに至りましたので、先生から今後のことなども含めながら、私どもの委員会、それから教育委員会も含めてですね、ご指導いただければありがたいと思いますが、よろしく願いいたします。

宮蘭アドバイザー それでは、委員長からお話がありましたので、今回の答申に際しまして、あるいは、また今後のことについてお話したいと思います。

まず、私も今回、この検討委員会に参加させていただきましたけど、ちょうど2年前の今頃だったでしょうか、お話を頂いたかなと思っております。

2年間かけて、今回で9回ということで答申に至った訳ですけども、私、これからは、やはり一番大事になってくるだろうなと思います。この中に、すでに文科省の方から出されています「適正規模、適正配置等に関する手引き」を踏まえ、考え方がこの中に反映している訳でありますけれども、もう一回この手引き等をしっかりと読んでいただいて、そしてですね、これからの具体的な統廃合、望ましい学校のあり方というのを議論していただきたいなあ、と思います。その時一番大事なのは、地域のビジョンなんだろうなあ、と思っています。地域をどのように考えていくのかという事ですね。

例えば、この1月23日の新潟日報の一面、もうすでにご覧になっているかと思いますが、「県の人口戦後最少に」という事で、人口が230万5千98人、そういうデータが一面で示されております。そして、これは2015年の国勢調査のデータに基づいている訳ですけども、減少する率は最大になっている、という事を示されておりました。そして、これはまったく別のデータですが、1月24日の朝日新聞の広告なんですけれども、日本福祉大学の、福祉関係の大学の方で日本の人口ピラミッド、このようになっていますというデータが示されています。

これらのデータを見ていったときに、あっ、だから少子高齢化でこれからは厳しい現実なんだなあ、という事を、そういう事実を見ていくという事も、確かに一方ではあります。でも、こういうデータを見たときに、将来どんなふうに展開しそうかという事をしっかりと見通しておくという事が大事なことであって、ただその時に社会がまた変わっていくんだろなあという一方では思っています。人口が、例えば減少していくから地域の活力が失われていくのか、という事とはまた違うという部分も出てくるのではないかなあ。例えば、企業での働き方も、地方で働くというようなスタイルもあちこちで出てきているようなところがありますよね。そういう事とか、地域の中で生活していく、そういう事を考えていくと確かに社会は変わっていくし、どういう方向に変わっていくのかという事、これはなかなか見通せないところもありますけれども、ただ、今、子どもたちが目の前にしている職業というのは、子どもたちが大人になった時にはかなり多くが、今ある職業とか仕事とかは大きく変わっているだろうという事は、よく言われている事ですね。そういう事を先まで見ていったときに、地域で子どもたちを育てていくという事を、地域の人たちが、大人が子供たちの将来も含めてビジョンを描いていくという事を、しっかりと協議していくという事が大事だろうと、いうふうに思っております。

ここには、基本的な方針しか示されておられません、今日の答申は。それに本当に命を注いでいく、そこから活力を引き出していくというのは、やはり地域の皆さん方だろうし、そしてこの委員会に参加いただいた皆さん方がその中で重要な役割を果たして行ってほしいなあ、というふうに思います。やはり地域の事ですから互いが議論をして、そして、いい学校のあり方と言いますかね、そして地域のあり方という事を議論していく、そういう雰囲気を作って行ってほしいなあと思いますし、そのために是非、力を注いで行ってほしいなあ、というふ

うに考えています。

わたしのこと、もう10年位前でしょうか、三面川の学習会をこの地域の先生方と一緒に取り組ませていただきました。なぜ三面川、新潟から、三面川に来たかと言いますと、三面川の流域にはいろんな学校があります。その当時は三面川を中心としていましたけれども、それ以外にもいろんな流域がありますけれども、川を媒介していろんな地域があるし、そこにはいろんな学校があるけれども、そういう流域でもってお互いが学校の境界を越え、何か地域の文化を発信するような総合的な学習等が作れるじゃないかなあという事で、この村上に魅力を感じ、そして地域の先生方と学校を越えて学習会を組織したことがあります。数年間それに取り組んでまいりました。なかなか学校を越えて議論をするというのは難しい現実があり、実際はありました。ただ、これからはもっとそういう事を考えていく、あるいはそういう素地がある地域だという事を踏まえていって、どういう形の学校のあり方を地域で考えていけばいいのかという事、そこを議論していってほしいというふうに思います。

それで、そういうビジョンをしっかりとをもって、そして地域で学校のあり方をですね、議論する。やはり子どもたちの事を考えてほしい。2つ目は、やはり子どもたちの事を考えてほしいなあという事ですね。意見は、多分これからいろんな意見が、皆さんお持ちで、そこで議論されていくと思われま。ただ、その時に皆さん方が納得していって、先へ進んでいくというか、完全一致というのはなかなか難しいところがあるかもしれない、でも歩み寄っていくという努力をしていってほしいなあという事ですね。なかなかそういう、学校を、例えば二つの学校を一つにするという時に、どういう統廃合のあり方になるのか、校名はどうするのか、例えばそういう議論等もあります。その時にそれぞれの思いというものをくみ取っていって、その上で先へ進めていく。そういう取り組みと言いますか、方向に向けての議論のあり方というのを、皆さん自身が是非リードしていってほしいなあというふうに思っております。

私自身も今回こういう形でこの委員会の中に参加させていただいている訳ですね。そうするとこれで終わりではなく、今後は皆さん自身がまた地域の方々と一緒に議論していくという事になると思いますけれども、どっかでやっぱり、関わっていく、関わっていくというのは、直接関わっていくというのではなく、どういうふうに動いているのかなあという事が気になってくる事もありますし、自分が関わってきた

学校がどういうふうになつていけるのかなあという事ですね。そういう事やっぱり気になるという事は今でもあります。

そういう事で共に、これからの村上の小中学校のあり方、学校のあり方という事をですね、一緒に考えていきたいなあ、というふうに考えています。

それでもう一遍、繰り返しもなつてきますが、是非、皆さん自身がもう一遍こういう基本的な方針についての文書をですね、読み込んでいって、そして地域の人たちと議論するという、そういう方向を作っていっていただいたらと、思っております。

これまでの2年間の議論の中で、多くのエネルギーを注いでいただきましたし、そして基本的な方針を作っていただきましたので、これで次への一歩が進むわけですけれども、これからが一番大きな役割になってくると思いますので、是非そういうことでよろしく願いいたします。以上です。

吉川委員長

先生、本当にありがとうございました。

今のお話にあったように私どもが答申いたしますと、それを受けて具体的なこの地域のこの学校やこの学校を、まず順序性の問題も含めて私ども答申してありますので、さっそく教育委員会さんの方ではそういう具体的な作業に入られるだろうと、こう思う訳ですが。その時になってですね、私どもが今までの検討委員会の過程で、「これはどうだ、あれはどうだ」と話し合ってきたことが必ず、再び話題になるというか、議題になるというか、そういう時点が必ず到来するだろうと、こう思っている訳であります。そういう意味で今、先生からのご指導がありましたように、私どもも今後のそういう具体的に即したいろいろな問題が出る段階で、今まで私どもが検討してきた過程で得た情報とかですね、あるいは判断の仕方とか、国の基準あるいは県の情報とかそういうものをベースにして、まっ、各地域で、それぞれの地域で、お役にたっていかなければと、私個人としても感じている訳であります。先生、本当にありがとうございました。

皆さんの方からこの際、こういう事はという事でお話ございませんか。その他とありますが…。

はい、特になければ、いわゆる議事として次第にあります、カッコ1、2、3と、終了した、といたします。

ありがとうございました。

鈴木管理主事 ありがとうございます。それでは次第の4、「その他」に移ります。
学校教育課長からお話があります。

遠山学校教育課長 はい、皆さん大変ご苦労様です。私の方からは皆様方を委嘱して、
その後、検討委員会、2年近くにわたってお願いしてきた訳ですが、
任期につきまして、この検討委員会の条例の中で定められており
ます。第4条という事で、「委員の任期は、諮問に係る答申をした日を
もって終了するものとする。」という事になっておりますので、先ほど
お話ありましたようにこの後、答申書の伝達となりますので、本日をも
ちまして皆様方の委員としての職が解かれるという事でご理解いた
だきたいと思います。

 なお、皆様方、今ほどのお話にもありましたように、再三ありまし
たけれども、今後のこの答申を踏まえた後の各地域での、我々、教育
委員会がたてる整備計画につきましての説明会並びに計画検討等に、
またお力添えをいただければと思っておりますので、なにとぞよろしく
お願いいたします。以上でございます。

鈴木管理主事 それでは最後になりますが、三浦副委員長からご挨拶をいただき
たいと思います。

三浦副委員長 はい、皆さん、大変お疲れ様でした。

 2年間にわたる協議に、大変お忙しい中お集まりいただきまして、
ご協議いただきましたことに深く御礼申し上げます。ありがとうございます。
また、宮菌先生におかれましては、それこそ多忙のなか
を時間を割いていただきまして、私どもに適切なるアドバイスをいた
だきまして、誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。

 また、最後になりましたけど事務局の皆さんも、非常に細かい資料
を丁寧に出していただきまして、あるいは作成していただきまして、
本当にありがとうございました。

 私どもも、今、任を解かれたという形を表面はとっておりますけれ
ども、やはりこれからがまた一歩踏み出す機会、契機なんだという事
を肝に銘じまして、また新たな使命を帯びたような、そんな感じも致
します。非常に責任重大なことにたずさわっているんだという気持ち
がひしひしとその重みが伝わってくるような感じがいたします。

 ただいづれにいたしましても、子どもたちが本当ににぎやかに、そ

してのびのびと勉強したり、スポーツをしたり、そんな励む姿をひとつ、皆さんイメージしていただいて今回を閉じたいと思います。

本当に長い間、お疲れ様でした。ありがとうございました。

鈴木管理主事

ありがとうございました。

以上で本会を閉じたいと思います。長い間ありがとうございました。

4時28分 終了